



SVC インターフェイス上の SPAN の設定

SAN-OS Release 1.3(x) から、Caching Services Module (CSM) で Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチドポートアナライザ) 機能も使用できるようになりました。

SPAN 機能は、Cisco MDS 9000 ファミリー スイッチに固有の機能です。この機能は、インターフェイスを通過するネットワークトラフィックをモニタします。SVC インターフェイスを通過するトラフィックを、SPAN 宛先ポート (SD ポート) と呼ばれる特殊なポートに複製することができます。

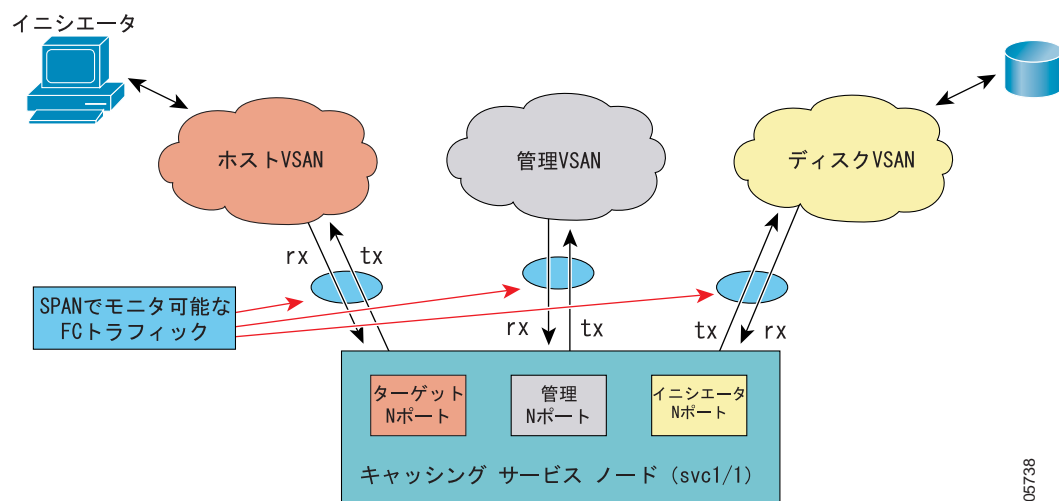
この章の内容は、次のとおりです。

- [SPAN 送信元としての SVC の概要 \(p.9-2\)](#)
- [SPAN 送信元としての SVC インターフェイスの設定 \(p.9-3\)](#)

SPAN 送信元としての SVC の概要

SPAN 送信元とは、トラフィックをモニタする対象となるインターフェイスを意味します。CSM ノードを SPAN 送信元として指定することもできます。その場合、SVC 仮想インターフェイス (N ポート) が SPAN 送信元に含まれます。どのインターフェイスについても、入力方向、出力方向、または両方向の SPAN トラフィックを選択できます (図 9-1 を参照)。

図 9-1 SPAN 送信元としての SVC インターフェイス



さらに、入力方向、出力方向、または両方向でトラフィック タイプ (イニシエータトラフィック、ターゲットトラフィック、または管理トラフィック) を指定することもできます。このオプションを指定するには、**traffic-type** パラメータを使用します。

複数の N ポート VSAN の設定については、「[複数のイニシエータおよびターゲット](#)」(p.2-10) を参照してください。

SPAN 送信元としての SVC インターフェイスの設定

SPAN 送信元として SVC インターフェイスを作成する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 MDS コンフィギュレーション モードを開始します。

```
switch# config t  
switch(config)#
```

ステップ 2 SPAN セッションを設定します。

```
switch(config)# span session 2  
switch(config-span)#
```

セッションが存在しない場合、作成されます。

ステップ 3 SPAN セッションの宛先インターフェイスを設定します。

```
switch(config-span)# destination interface fc1/9
```

ステップ 4 送信元インターフェイス svc1/1 を、両方向のイニシエータ、ターゲット、および管理トラフィックタイプに設定します。

```
switch(config-span)# source interface svc1/1
```



(注) traffic-type オプションは SVC インターフェイスに固有のオプションで、その他のタイプの SPAN 送信元インターフェイスで使用することはできません。

ステップ 5 送信元インターフェイス svc2/1 を、rx 方向のすべてのイニシエータと管理トラフィック、および tx 方向のすべてのターゲットトラフィックに設定します。

```
switch(config-span)# source interface svc2/1 rx traffic-type initiator  
switch(config-span)# source interface svc2/1 rx traffic-type mgmt  
switch(config-span)# source interface svc2/1 tx traffic-type target
```

ステップ 6 送信元インターフェイスを、rx 方向のイニシエータ、ターゲット、および管理トラフィックタイプに設定します。

```
sw(config-span)# source interface svc1/1 rx
```

ステップ7 設定した SPAN セッションを表示し、設定を確認します。

```
switch# show span session 2
Session 2 (admin suspended)
  Destination is fcl/9
  No session filters configured
  Ingress (rx) sources are
  svc1/1(initiator), svc1/1 (target), svc1/1 (mgmt)
  svc2/1(initiator), svc2/1(mgmt)
  Egress (tx) sources are
  svc1/1(initiator), svc1/1 (target), svc1/1 (mgmt)
  svc2/1(target)
...
```

これで、SPAN 送信元として SVC インターフェイスを設定する作業が完了しました。SPAN 機能の詳細については、『*Cisco MDS 9000 Family Configuration Guide*』を参照してください。

VSAN フィルタによる N ポート トラフィックの指定

デフォルトでは、すべての N ポートが SPAN の対象になります。VSAN フィルタリング SPAN 機能を使用して、特定の N ポートに関してトラフィックをモニタすることができます。

たとえば、SVC インターフェイス (3/1) に 3 つのイニシエータ N ポートがあると仮定します。N ポートはそれぞれ、VSAN 3、4、5 に属しています。次の手順では、VSAN 3 のイニシエータ N ポートを SPAN の対象にします。

VSAN フィルタの詳しい使用手順については、『*Cisco MDS 9000 Family Configuration Guide*』を参照してください。

SPAN フィルタを設定する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 MDS コンフィギュレーション モードを開始します。

```
switch# config t  
switch(config)#
```

ステップ 2 SPAN セッションを設定します。

```
switch(config)# span session 3  
switch(config-span)#
```

ステップ 3 送信元 svc 3/1 インターフェイスを、出力 (tx) 方向のすべてのイニシエータ トラフィックに設定します。

```
switch(config-span)# source interface svc 3/1 tx traffic-type initiator
```

ステップ 4 VSAN 2 をセッション フィルタとして設定し、VSAN 2 のトラフィックだけを SPAN の対象にします。具体的には、VSAN 2 のイニシエータ N ポート トラフィックをモニタします。

```
switch(config-span)# source filter vsan 2
```

ステップ 5 VSAN 4 および VSAN 5 をセッション フィルタとして設定し、これら 2 つの VSAN のイニシエータ N ポート トラフィックを SPAN の対象にします。

```
switch(config-span)# source filter vsan 4-5
```
